

小さなおもちが教えてくれるもの

笠祇小学校『収穫祭』

『いねかりは大変だけど後からはみんながたべるおいしいおもち』。この短歌は笠祇小の『収穫祭』で児童が詠んだものです。この行事は子どもたちが稲から育てた米でもちつきをするというもの。笠祇小では以前から地元の人々の畑を借りてお米を育てています。4月に田植えをしてから世話をしてきました。初めて田植えをした子は「泥んこの田んぼに入るのが楽しかったです」と、とにかく自然に触れることがうれしくて仕方なかった様子。8月には稲刈りをしました。かまを使つての作業は「かまで切るの



笠祇小学校 中村富英校長
子どもたちには貴重な経験。小さな学校ならではの地域とのつながりを感じながら育てほしいですね。

にはコツがあります。おじちゃんたちには教えてもらいながら頑張りました」と慣れていく上級生でも大変だったそうです。「地域の皆さんにたくさん手伝ってもらいました。わたしたちは多くの人に支えられているんだなと感じました」。地域の私たちの愛情を受けながら育てたお米は、収穫祭でおいしいおもちに姿を変えます。収穫祭では上級生が下級生につき方や丸め方を教えている姿が印象的でした。みんなの力で作ったおいしいおもち。口に入れるとこれまでのことが思い出されるようです。「ちいさな苗からお米になって、最後にはみんなが食べるおもちになるなんて、すごい」と感動した様子。「たくさん野菜を作るのはもつと大変なこと。これからはいろんなものを、感謝して食べたいです」。小さなおもちから、大きなことを学んだ子どもたちでした。



11月のふれあい参観での一時預かり保育の様子。赤ちゃんのあやし方も手慣れたもの。

串間更生保護女性会のみなさん 何かのお役に立ちたい

犯罪や非行のない明るい社会づくりの奉仕活動をしている串間地区更生保護女性会(森本明子会長)の皆さん。その活動は道路花壇の草取りや無人駅のお手洗いの清掃、高齢者への声かけや子どもたちの登下校の見守りなど多岐にわたります。

今回は、福島支部と上町支部の皆さんが合同で活動している『福島小一時預かり保育』の取り組みをご紹介します。



「孫はもう大きいので、小さな子どものお世話は久しぶり。元氣をもらっています」と話すのは同会副会長で、一時預かり保育の活動に参加している高原厚子さん。豊かな経験と奉仕の心で地域の子どもたちを温かく見守ります。活動を始めたのは5年ほど前。「福島小学校から依頼がありました。小さいお子さんを持つ親御さんが参観や入学式に参加しやすい

永友裕校長。思いやりの気持ちで奉仕活動を続けている串間地区更生保護女性会の皆さん。地域の母の深き懐で今日もみんなを笑顔にします。



串間地区更生保護女性会副会長 高原厚子さん
『エコでお金をかけない』を基本に奉仕活動しています。チラシで作ったメモなどを保育園に寄贈しています。